



京都切り絵歳時記

月刊

あじenda

2007年

8月



みやこ
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信
月刊あじendaは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

事務所 〒612-0031 京都市伏見区
深草池ノ内町13
京エコロジーセンター2F
活動支援室内
TEL : 075-647-3535 FAX : 075-647-3536
E-mail : ma21f@mbx.kyoto-inet.or.jp

事務局 〒604-8101 京都市中京区柳馬場通
御池下ル柳八幡町65
京都朝日ビル4F
京都市総合企画局地球温暖化対策室内
TEL : 075-211-9281 FAX : 075-211-9286

京のアジェンダ
21フォーラム

各プロジェクトリーダーと事務局長が懇談

動き出す各プロジェクトを事務局もサポート

7月10日、11日、13日の3日間、フォーラムの今年度の各テーマ別プロジェクトのリーダーと、高畑事務局長とが懇談を行い、各プロジェクトの目標、各部局との連携、地球温暖化対策室からどのようなサポートができるか等について、意見交換を行いました。事務局のある地球温暖化対策室では、今後各プロジェクトが上手く進むよう、関連する部局に働きかけていきます。

北事高
井務畑
さん局
南事
さん務
さん局長
(中)(左
とと



名称	事業内容	意見交換の内容
(重点) 京都環境コミュニティ活動 (K E S C) 事業	学校区を単位として、企業、学校、地域住民が連携して環境取組を継続して行う仕組みづくりを行う。	参加事業者の拡大、及びプロジェクトを担う中心スタッフの拡大が課題。大学とも連携したい。市には、参加企業の表彰や、広報協力を期待する。区役所のまちづくり推進課とも連携できると良い。
(主要) 環境調和型観光の統合パッケージの開発プロジェクト	エコツーリズムの実践のための課題を整理し、宿泊施設等を核に実践できるエコツーリズム施策の統合パッケージの開発を目指す。	旅行会社、宿泊施設等がのってくるようなエコツーリズムの企画立案が課題。観光客がエコツアーを選ぶようにしていきたい。産業観光局と連携していきたい。
(主要) 自然エネルギー・コミュニティづくりプロジェクト	商店街や小学校区等を単位として、自然エネルギーの利用を進めるモデルコミュニティづくりに取り組む。	環境にやさしい地域の核になっている市民共同おひさま発電所づくり(市民、企業が共同で出資し、保育所等の屋根に太陽光発電パネルを設置する)に、多くの企業が参加協力し、各社が自然エネルギーの普及に努めてほしい。市には、区役所、教育委員会、商店街への働きかけを期待する。
(実施) 環境にやさしい修学旅行提案事業	全国の学校の先生、生徒に対し、環境にやさしい修学旅行の方法についてのチラシを発送する。	チラシを見て反応があった生徒へのフォローの方法を検討していく。産業観光局、京エコロジーセンター等と連携していきたい。
(実施) 「交通ワーキングだより」制作配布プロジェクト	毎月、交通ワーキンググループ(以下WG) ニュースレターを発行する。	WG同士の情報交流を活発にし、活動への参加者を拡大することを目指す。
(実施) ウェブサイト「京の交通交流ひろば」の運営	京都の交通の取材報告、意見交換・提案の場をネット上に設ける。	建設的な提案を、ウェブに掲載する前に、直接交通局に持って行くようにしていくと良い。市バス以外の公共交通、自転車についても取り上げていくことを検討する。プロジェクトの担い手の拡大を目指す。
(実施) 京都版・グリーン電力プロジェクト	京都にあったグリーン電力制度(グリーン電力の持つ環境付加価値を証書の形にして、個人や企業などが省エネや環境対策の一環として取り引きできるようにした仕組み)づくりを行う。	京都の市民共同おひさま発電所で発電した電力を、京都の市民、企業に買ってもらえるような仕組みづくりを目指す。産業観光局の花灯路や、企業が行うイルミネーションの電力をグリーン電力にしてほしい。
(実施) サンガ・グリーンゴール・プロジェクト	新サンガスタジアムに太陽光発電パネルを設置するなど、市民共同で環境保全型のスタジアムをつくるよう、関係主体に働きかける。	暫くは、京都スタジアム推進委員会の進捗を見守る。

2007年度プロジェクト紹介 京都環境コミュニティ活動 (KESC) 事業

昨年度に引き続き、京都環境コミュニティ活動事業プロジェクトチーム（構成団体：有限会社村田堂、特定非営利活動法人KES環境機構、社団法人京都工業会、京都府地球温暖化防止活動推進センター、京のアジェンダ21フォーラム・企業活動ワーキンググループ）の活動が始まりました。この活動は、企業の地域社会貢献事業の一環として、地域の企業、学校、地域住民が連携して、それぞれの地域で環境問題への取組を継続して行う仕組みづくりを目指そうとするものです。

今年は、昨年度実施した京都市立藤ノ森小学校での取組を継続、発展させて実施するほか、京エコロジーセンターの平成19年度地球温暖化防止先進モデル事業として、新しく3地域で取組を行います。

今年は特に、企業と学校との連携を、企業、学校、地域住民との連携に広げ、地域住民を巻き込んだ形での実施を目指していきます。

現在、このプロジェクトにご参加くださる事業者を募集しています。「紙・ごみ・電気」の削減の取組を一通り行い、次の取組を探している方、「当社も地域社会に何か貢献したいが、1社では難しい」とお考えの方、「地域の人たちや子どもたちと交流したい」と思っておられる方は、ぜひご参加ください。

■募集対象 原則として、京都市内のKES（KES・環境マネジメントシステム・スタンダード）を取得されている企業、及びその他の環境マネジメントシステムを取得されている企業、取得に向けて取り組まれている企業

■募集期間 2007年8月末日まで

■参加費 無料

詳しく知りたい方は、フォーラム事務所（1ページ右肩面参照）までお気軽にご連絡ください。

【今年の活動予定】

●昨年度の実施地域での取組の継続

伏見区の京都市立藤ノ森小学校で行った出前授業を継続して実施します。

●新しい3地域の取組の実施 ※以下は活動例。最終的には、実施させていただく地域の課題・希望、参加事業者の方々の得意分野等によって決定します。

①環境学習

複数の企業が学校に出向き、合同で1つの環境学習プログラムを行います。中京区を予定。

②市民共同おひさま発電所づくり

保育園の屋根に、市民、企業が協働で太陽光発電パネルを設置し、それを核に、環境にやさしい地域づくりをすすめます。伏見区の醍醐地域を予定。

③水源の森づくり

全生物に清浄な水と酸素を提供し、全ての産業の基盤となる、動物が棲める豊かな森づくりを行います。京北、花背地域を予定。



6月27日に行った
第1回プロジェクトチーム
会議の様子

助成金案内 環境取組を対象とした助成金情報を紹介します



●平成19年度「エネルギー使用合理化技術戦略的開発」の第2次公募

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下「NEDO技術開発機構」）では、エ

ネルギー使用合理化の効果が期待できる技術研究・開発を募集します。

●公募期間：2007年8月20日17:00まで

●お問合せ先：

NEDO技術開発機構 省エネルギー技術開発部
契約・管理・調整グループ

「エネルギー使用合理化技術戦略的開発」担当
ファクシミリ 044-520-5283

※上記担当へのファクシミリにてお願い致します。

●URL：

http://www.nedo.go.jp/informations/koubo/190720_1/190720_1.html

Agenda
Forum

8月の
ミーティングと
主催行事の予定

3日（金）場所未定 脱温暖化行動キャンペーン第1回プロジェクトチーム会議



交通WGのウェブサイト「京の交通交流ひろば」 <http://traffic.ifdef.jp/>

★3年目に入って、好評運営中です

交通WGでは、インターネットでウェブサイト「京の交通交流ひろば」を運営しています。おかげさまで開設3年目を迎え、毎日多くのアクセスをいただいています。まだご覧になっていない方も、ぜひ一度「京の交通交流ひろば」(アドレスは上記)をご訪問ください。

★交通をテーマに提案と実現の橋渡しを目指します

交通は誰にとっても身近なテーマです。それだけに、普段利用しているバスや鉄道、自転車、そしてマイカーなどについて感想や意見をお持ちの方が少なくないと思います。

最近では、こういった意見を書き記して、個々にインターネットのブログ等で公表される方も少なくありませんが、公表した意見や提案を実現に結び付けるには、市民の側も一方的な苦情・要望の表明者にとどまらず当事者意識をもって臨む必要があるとともに、市民と行政機関(自治体・警察等)と交通事業者(交通局・民営鉄道会社・民営バス会社・タクシー業界等)とのパートナーシップの実現が必要だと、交通WGでは考えています。

ウェブサイト「京の交通交流ひろば」は、インターネット掲示板を中心に、優れた交通サービスの紹介や建設的な提案を数多く掲載することで、3者(市民・行政機関・交通事業者)が協働して京都の交通をより良くしていく一助となることを目指して運営されています。

★建設的な提案が交通事業者を動かし始めています

2006年3月の市会において京都市交通局は「京の交通交流ひろば」に言及して「今後も含めまして十分注視をさせていただきまして、採り入れられる所は採り入れて参りたい」と発言しました。その言葉通り、「京の交通交流ひろば」に提案された提案のうち、市バスや地下鉄のサービス改善に関する複数の案件が交通局によって実現されています。

- ①交通サービス等の現状を綿密に取材・調査し報告
- ②調査・取材結果をもとにサービス等の改善案をとりまとめて提案
- ③提案を見た交通事業者や行政機関ができるものから改善を実施
- ④改善された内容と改善効果を再び取材調査し報告

①②④を行うのは市民の役割です。また、交通事業者や行政機関が③で提案を実現することで、はじめて現

実の交通が改善されます。このプロセスは、各主体単独では実現できません。市民と交通事業者や行政機関とのパートナーシップが不可欠といえるでしょう。

交通の分野で上記の建設的な改善プロセスが実際に動き始めている事例として、「京の交通交流ひろば」の取組は全国の政令指定都市で唯一のものとなっています。

★あなたの取材・提案が現実の京都の交通を変えます

交通の問題を身近に感じているあなたも、「京の交通交流ひろば」に参加しませんか? 参加に必要なものは、あなたの参加の意志だけです。

レポーターになるのに、資格申請などは必要ありません。「京の交通交流ひろば」の掲示板には、どんなでもレポートや提案の書き込みができます。

掲示板の記事の数は、現在1300本を超えています。掲示板の既存の記事を参考に、交通事業者や行政機関が知りたい、利用者・市民の視点から見た現場の様子、また問題点の指摘と改善方策の提案について、どうぞあなた固有の視点からの書き込みを、ご遠慮なくさせていただきます。

交通WGでは、今後とも、京都市交通局に加えて他の交通事業者や行政機関等ともパートナーシップの形成を進め、環境にやさしい交通体系を京都に作り出すことを目指した活動を続けていきます。



ご存知ですか? これからの暑い季節に冷房の効いた場所で市バスが来るのを待つことができる、地下鉄駅コンコースの接近表示と市バスのりば案内です。「京の交通交流ひろば」では交通事業者のサービス改善事例も積極的に紹介します。(写真は地下鉄烏丸線丸太町駅)

事務局動静 7月 ～事務局スタッフの動きを報告します～



- 2日(月) 事業所内環境担当者講座(第2回)
- 4日(水) えこまつりWG運営会議
- 5日(木) 京都府地球温暖化対策プラン検討会議
- 9日(月) 京都GPN幹事会
- エコツーリズムWG交通WG共同プロジェクト打合せ
- 10日(火) 歩いて楽しいまちなか戦略・交通政策室と打合せ
- 事務局長プロジェクトリーダー懇談(その1)
- 11日(水) 京都市と秋本幹事長代理らとの懇談

- 事務局長プロジェクトリーダー懇談(その2)
- 12日(木) レジ袋有料化推進懇談会
- 13日(金) 事務局長プロジェクトリーダー懇談(その3)
- 事業所内環境担当者講座(第3回)
- 17日(火) KES Cプロジェクト・きょうとグリーンファンド打合せ
- 18日(水) KES Cプロジェクト・京北間伐予定地下見KES Cプロジェクト・KES環境機構と打合せ
- 25日(水) 醍醐コミュニティバス運行管理委員会ラジオFM845生放送出演



【好評連載】小山直美のドイツ報告

第2回 ドイツの野生動物 その1



早い時期に多くの森林を破壊してしまったドイツでは、クマなどのいくつかの大型野生動物も減りました。ですからドイツで「日本には野生のクマがいる」と話すと、「素晴らしい」と感嘆されました。

かつて野生動物を減らし、森を破壊した文明は、全て滅びています。全ての産業の基盤となる豊かな森は、植物だけでなく、動物がいて初めてできるものです。野生動物は、森の中を歩き回り、土を掘り起こすことによって地面を耕し、木の枝を折って森に光が入るようにし、木の実や他の動物を食べてフンをし、豊かな土を作ります。木の実の中には、動物に食べられてフンとして排出されなければ発芽しないものもあります。森を保全するためには、植物だけではなく、動物も保全しなければなりません。

ドイツでは、早くに森や野生動物を減ぼしてしまった反省の上に立って、月刊7月号で報告させていただいたとおり、商業用の人工林を造るときも、動物のことも考慮し、様々な種類の樹木を植えるなどの対策を行ってきました。

ドイツの野生動物の状況について、NABU（ドイツ自然保護連合）やBUND（ドイツ環境保護連合）、ヨーロッパ自然遺産財団ユーロネイチャーのスタッフの方などに話を伺いました。

◇オオカミが戻ってきた

ドイツに2000年頃、150年ぶりに、僅かな数ですが、野生のオオカミが戻ってきました。

した。NABUでは、オオカミは森林生態系の中で大変重要だと、ハンターや牧場経営者などの人々がオオカミを受け入れるように、キャンペーンを行っています。ハンターは、オオカミがシカなど自分たちの獲物を捕ってしまうために、嫌っています。また人々の間には、オオカミは人を襲うものだという先入観が、根強くあります。しかし実際には、オオカミは臆病で、人間のところに滅多に姿を現さず、家畜を襲うことはあまりないのだそうです。

現在オオカミが生息しているザクセン州では、オオカミと共存していくために、オオカミが牧場の羊を食べてしまったときの被害補償制度を設け、シープドッグ（羊を守る犬）のトレーニングを行っているとのことでした。

日本では、野生動物による農林業被害対策としては、柵設置などの被害防止対策、被害補償よりも、捕殺費用に多くの税金が割かれています。また、山奥まで動物が棲めないスギ一辺倒の人工林が広がっています。野生動物は農作物を食べてしまうなど被害を起こすことがある一方、豊かな森を造るのに欠かせない益獣でもあります。日本でも、捕殺だけではなく、被害補償制度や柵設置等の被害防止策、長期的に見たときに動物との棲み分けが可能になる、自然林に近い豊かな森の復元を早急に行っていくことが必要だと思います。（小山直美）



(※ドイツは大半がディーゼル車)



延々と続く、京都のスギの人工林。



オオカミ。150年ぶりにドイツの森に戻ってきた。

事務局短信 本日、梅雨が明けて夏到来です！ 夏に気になるのが電車やバスの冷房。外の暑さよりも冷えに参ってしまいます。今年の夏は省エネが浸透して、寒い車内が少しはマシになるでしょうか。（竹村光世）／セミが元気に大合唱を始めました。もうすぐ梅雨明けです。私のマンションは4階建の4階部分なのでこれからとても蒸し暑くなります。ゴーヤカーテンを検討中。（小山直美）／地下鉄の駅の市バス接近表示器は現在、烏丸線の今出川駅・丸太町駅・四条駅と東西線の東山駅の4駅に設置されています。さらに他の駅にも設置する予定だそうです。（長谷川吉典）